

# 学校運営協議会 全国最多 116 校に

各校の特色を知り、自校の取組を広く発信  
 情報を共有し地域ぐるみの教育をさらに充実

## 皆様の熱い思いに感謝

京都市教育委員会教育長 高桑 三男

このたび教育委員会では「コミュニティ・スクール通信@京都」を新たに発行致しました。ご承知のとおり「コミュニティ・スクール」とは、学校運営協議会を設置している学校の通称で、その数は全国350校余り。京都市は9月16日現在116校。全国の設置校の3割を超えています。



私は、京都の学校でこれだけ学校運営協議会の設置が増えたのは、明治の番組小学校の創設以来、「地域ぐるみで子どもを育もう」という伝統が息づいているからに他ならないと強く確信しております。

この「コミュニティ・スクール通信@京都」では、学校運営協議会のホットな話題や各学校の特色ある取組事例などを順次紹介させていただきますので、お互いに参考にしあい、各学校運営協議会の充実・発展に役立てていただきますとともに、委員の皆様の情報交流の場として広く活用していただければ幸いです。

## 学校運営協議会への期待

京都教育大学教授  
 学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会委員長 堀内 孜

これまでは「子どものことは学校に任せる」というような風潮がありましたが、京都市では、多くのボランティアの方々が活動され、その意見を学校運営に反映させるという支援型とも言うべき学校運営協議会が展開されています。学校運営協議会を設置することにより、個々の方々による様々な活動が点から面へと広がりを見せてきていることが大きな成果であろうと思います。

子どもたちを育む主役は保護者であり、地域の方々です。今後、学校運営協議会がさらに成熟していくためには、より多くの大人が意識を持ち、その代表が委員となるなど「代表参加制」とでもいうべき形態についても研究していく価値があるのではないかと考えています。長い長い学校の歴史の中で、学校運営協議会はまだ始まったばかり。保護者や地域の方々が一定の権限と責任のもと、学校と一体となって子どもを育む姿が見られる京都市の学校運営協議会の活動に今後も注目していきたいと思っております。



### ◆ワンポイント 学校運営協議会と学校評価◆

昨年、学校教育法施行規則が改正され、公立学校での学校評価の実施が義務づけられました。京都市では、全国に先駆けて、平成15年度から学校評価システムを導入し、全校で実施と公表を行っていますが、今回の法制化を受け、学校評価はさらに重要となってきています。

学校の「自己評価」、アンケートによる「保護者・地域の方々の評価」「児童生徒による評価」の結果に対して、学校運営協議会の皆さまには「学校関係者」として客観的な評価を行っていただくこととなります。皆様の貴重な意見がさらなる学校改善につながることを期待しております。

## 学校運営協議会が地域を創る

——わが国のコミュニティ・スクールの生みの親、金子郁容氏から聞く——

去る8月6日、京都の地域ぐるみの教育実践を全国に発信する「第10回地域教育フォーラム・イン京都」が左京区宝ヶ池の京都国際会館で開催され、市内外からの4600人の参加者が全体会と8つの分科会に集まりました。

その一つ「学校運営協議会の成果と今後の展望」と題した分科会では、わが国のコミュニティ・スクールの提唱者である慶應義塾大学大学院の金子郁容教授に「法制化4年を経過して」と言うテーマで基調講演をいただき、その後、玉川大学教職大学院の小松郁夫教授のコーディネートで新町小学校と修学院中学校の実践事例が発表されました。（下の写真は分科会の様子）



講演で、金子教授は「コミュニティ・スクールにすること自体が目的ではない。こういう学校にしたいというビジョンがあり、それを実現するために便利に使えるならコミュニティ・スクールというツール（手段）を用いるということが重要だ。いい学校、いい地域にするためにコミュニティ・スクールという制度を戦略的に活用してほしい」と学校運営協議会の意義を改めてお話しされました。また、実践発表では、新町小学校学校運営協議会の藤原信生会長から「学校運営協議会の活動を通じて、昔の地域と子ども、学校とのつながりが形は違いますが復活してきたように感じる」との報告や修学院中学校の玉川勝太郎会長から「今年5月に発足したばかり。先行の学校運営協議会に追いつけるよう、今、地域の諸団体から様々な考えを出してもらっている。」との経過報告がありました。コーディネーターの小松郁夫教授が「全国で350校近くが新しい学校づくりに踏み出した。しかし、全体から見ればほんの僅か。京都には先進的かつ多彩な実践がたくさんある。どんどんまねをし、それを超えて自分のところらしいものができればよいのではないかと全体のまとめをされ、参加者からは「地域に教職員が積極的に出て行くことが大切だとわかった」「学校運営協議会の「戦略的」活用を今後も目指したい」などの感想をいただき、大変有意義な会となりました。

（\*当日のフォーラムの報告集は12月に発行予定です。入手方法など詳しくは学校指導課のホームページで10月以降に配信します。なお、上記の二つの学校事例につきましては、下記のコーナーで紹介しています。）

### 学校運営協議会

### 新設校NEWS 修学院中学校

5月28日、修学院中学校学校運営協議会が発足しました。発足式では、吹奏楽部の部員から「私たちが通う修学院中学校を、より素晴らしく活気に満ちた学校にするためにお力を頂き、本当にうれしく思います」と挨拶があり、続いて吹奏楽部の生徒たちによる記念演奏が披露され、華やかな発足式となりました。

長者善高校長からは「学校運営協議会の参画で修学院中学校を『世界でいちばん通いたい学校』にしたい」との挨拶。また、協議会の会長になられた八瀬地域の玉川勝太郎氏から「学校と地域が常に力を出し合って、力を合わせて子どもの育つ道をきちんと作っていきたい」と抱負が述べられました。今後、企画推進委員の皆様により評価部会、広報部会、スタディ部会、ボランティア部会が設置され、活動が始まります。



### こんな取組を進めています

### 実践紹介 新町小学校

「優しい子どもから優しくてたくましい子どもの育成」、このことを合言葉に、平成17年6月京都市の先頭を切って新町小学校学校運営協議会が発足しました。

子どもたちのためにできることは何か、大人たちが真剣に議論を交わし、今では7つの企画推進委員会で140名余りの方々が活動されています。学校だけでは実現できないことを学校運営協議会として実現することを目指しています。その一例として、学校から遠く離れた西賀茂の農園で、新町の子もたちが泥にまみれて笑顔で作物を育てています。また、山の家での4泊5日の長期宿泊学習。学校運営協議会のサポートがあってこそ実現可能となった活動です。そして、忘れてはならないのは、これらの活動に関わるにより、地域の大人たちが仲良くなることです。これが新町小学校の学校運営協議会の原動力となっています。

「僕は野菜が苦手だけど、野菜を大事に育てるのはすごく大変だから頑張って食べる。」このような子どもの声が何よりの成果ではないでしょうか。



## 編集後記

創刊号はいかがでしたでしょうか。学校運営協議会の活動を紹介する冊子として、昨年、教育委員会では、60校園の学校運営協議会の取組事例集（右写真）を発行し好評を博しました。その続編として年3回程度情報誌を発行してまいります。次号から、より地域に密着した内容で編集してまいりますので、皆さんの学校の取組を、地域教育担当までご連絡ください。



発行日：平成20年9月16日

発行者：京都市教育委員会学校指導課  
地域教育担当

京都市中京区寺町御池上る上本能寺前町488

電話 222-3747 fax 231-3117

[http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-2-9-0-0\\_13.html](http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-2-9-0-0_13.html)